

修了式のごき。これは何んでもない注意のやうであるが、年長の組の得る修了、その先輩さのお別れ、お祝ひご送別。こんなごきに初めて出あふのであるごきは、可なり

誘導保育

第四週 旅行

改札口

三寸角位の材木(必ずしも三寸角ごは限らない、もつご細くても結構)を、子供の胸位の高さに切つたのを五本ばかり用意する。之を鍵の手に立つ様に工夫する。それにはこの鍵の手の底になる部分に、分厚の板(三寸幅位のもの)を當て、この板の上に三寸角の五本の棒を立てる様にするご、安定に立つ。之の上の方は、底ご同じ様に三寸幅位の板を渡せば一番よし、そうでなく横の方へ細い板を、やはり鍵の手に曲つて打ちつけて上の部を固定してもよし、或は、布や麻紐等にて編んだ太い紐等を各々に結びつけてもよし。それから上ご下の間にも、今の様な工合にして、も

意味をもつごきいへやう。その意味をさうしたら強めるごきが出来るか、強めるごいつて、幼児らしくするごきが出来るか。問題はそこである。

う一ヶ所固定するごい。ごういふのを、も一つ拵へる。

そしてこの二つを向ひ合ひに竝べるご、改札口ご云ふ感じが出て来る。この一方の内側の角の所に子供が立つて改札の仕事をする。この柵が出来るご、もう子供等は教へられなくごもそれご部所について遊ぶものだ。

切符賣場

お庭の土の上、又は、お部屋の床の上に立てる様な獨立した切符賣場を拵へてもい、或は机ごか臺ごかの上に乗せる様な小規模のものでもよし、材料の都合で何れごもきめる。

前者だつたら、正面中央を七〇センチ、兩袖を三〇センチ位の幅、高さは、子供の脊の丈よりも高くしておく。兩

袖はこの切符賣場が安定に立つ爲に、是非必要である。そして下から七〇センチ位の高さの所に窓を開ける。この窓は、現今までの切符賣場(都會の驛々)でもする様に、細かく編んだ金網を張り、下から一〇センチ位は、金網を張らずにあけておき、切符を賣つたり買つたりする出し入れ口にしておく。

後者の小規模のものは、今の大きいのを、下から六〇センチ位チョン切つたものと思へばよい。この切符賣場云へ、改札口と言ひ、色をぬる方がよい。木地を出しておくことはあまりに粗雑に見えて、氣を荒立てる。こゝにもならうかとの懸念がある。

旅行ごっこ
切符、トランク、改札口、切符賣場等が揃ふと、子供達の興味はいよゝ熱して来る。その中にはきつと驛賣りが始められるに違ひない。あの品物を入れて頸から釣下げ、汽車が着く毎に、「新聞、雜誌、お壽司、サンドウケツチ」を呼び歩く様子は、子供達が眞似したいものゝ一つであらうから、小形の木の空箱等を見つけて、兩側に穴をあけ、

こゝから紐を通して下げられる様にしてやるがよい。色を塗つたり、この箱の横の方へ驛の名をエナメル等で書かせるのもよい。

それから、賣る品物も何か工夫してやつて、豊富に、そして丈夫にこしらへておく様に誘導を怠らなかつたら、仕事も相當に長く続くであらうし、之での遊びも、亦かなり長続きする事であらう。

節分

この行事で、鯛の頭や、柀の枝を外戸に挿したりする事は、あまり子供の興味を惹かないかも知れないが、歳男が袂を着て、升に入れた煎り豆を「福は内、鬼は外」ミ、ミなへながら、部屋々に撒いて歩くところは、正に興味の絶頂であらう。そしてお年の数だけのお豆を家中の人々が、お祖母さまも、お父様も、みんなが揃つて食べるなんて、何て嬉しい事であらう。思へば行事云ふ行事は、五月節句にせよ雛節句にせよ、又七夕であれお名月であれ、皆子供をよろこばせ様にして、昔からこういう習慣を拵へたのかと思ふ程に、これもこれも子供のよろこぶこゝこゝばかり。

私なき田舎育ちのもの、幼時のなつかしい追憶を言へば、皆行事の樂しかつたこと、村祭りの嬉しかつた事ばかりである。いろ／＼と目まぐるしいまでに享樂の機會に恵まれてる都會育ちの人には、それ程クッキリ印象されては居ないかも知れないが。

この面白い豆撒きの行事も是非幼稚園で盛大にし度いものだ。

前々からの用意として、袴や一升袴を作る事。

この用意にはなるべく組全體の子供を參與させる様に注意を拂ひ度い。袴はお手輕に模造紙等で拵へたらさうだらう。上はねずみ色、袴の部は紫色等で。

大體のデザインは先生がする。子供は切り抜いたり、糊で貼つたり、背中や前の紋をつけたりする。

袴は、大體の見當でいゝから木でもつて、四角く、袴の感じの出るものを拵へる。袴の代りにお三寶にしてもいいだらう。尤も子供達は内心、誰もが歳男になり度がるから、大型の紙を折つて大きなお三寶を澤山拵へ、この中にお豆を入れてみんなにも撒かせたらいい。

お豆は、大豆を煎つて用ゐるのが正式である。大豆には毒鬼を殺す威力があるとか言傳へられてゐるので、鬼を拂ひ、福を招くのこの行事には、大豆でなければ意義をなさないのであらうけれど、摺り餌育ちの幼児のかなりにある常幼稚園の、而も年少組では、遺憾ながら萬全を期して、ボールミカ金米糖ミカを代用する。

當日になつたら、恥づかしがらずに、何處でも大きな聲で「福は内、鬼は外、鬼の目玉ぶつぶれろー」を、みなへられる人を歳男に決める。この人に、出來たての紙の袴を洋服の上から着せる。そしてボール(又は金米糖)入れの袴(又はお三寶)を持たせて、主事室、先生方のお部屋、みんなのお部屋、それからさのお部屋もまき、小使室へもまき。みんなも、各々のお三寶に、相應のボール(又は金米糖)を入れて貰つて、歳男と一緒に撒いて歩く。一通り撒き終へたら、お部屋でみんな揃つてお年の數だけのお豆(代用)をいたゞく。

第五週

スキー場

近代生活の生んだ冬のスポーツ、スキーに對しての熱は、都會生活を營む大人の間に猛烈な勢で迫る。その餘波をうけてか、幼稚園期の子供の心にも相當の興味を湧かすものだ。

それで、今は丁度シーズンでもあるしするので、お部屋に備へられてある砂箱を造作して、スキー小屋、スキー人形、旗等をしつらへ小規模のスキー場を作らうとする。

これの期待効果は、共同製作。

繼續作業時間は、二週間。

今週は砂箱の造作。

先づ砂箱に砂を入れて、適當の傾斜を持たせてならず。メリケン粉、白墨の粉等をふりかけて雪に見せかけてもいゝだらうし、綿をちぎつて一面にちらしてもよろしからう。これで砂箱の造作は大體出來た事にする。

第六週

スキー小屋(前週)、手技の項参照)

スキー人形(同前)

國旗

會場を賑はす爲の萬國旗(手技の項参照)。

第七週

ひなまつり

雛祭り、この幼稚園でも、盛大に行はれない所は無いであらう。各地方、各園思ひ々の趣向を凝して、之を一年中の一つの大きな行事にしてゐるのである。各幼稚園には殆んど一揃のお雛様や雛道具の揃へて居ない所は無い位であるが、更に又幼児にも年毎に製作させて、この日の意義を徹底させて居るのである。

吾が國でも、前々から計畫してこの日の準備をし、いよいよの當日には幼稚園一同、遊戯室のお雛段の前に集ひ、主事のお話を伺つたり、各々の幼児が代る／＼お話をしたり、歌を歌つたり、遊戯をしたりしてお雛様に捧げ、お互同志も打ちまけて一同でお菓子を頂いて楽しむのである。

製作の方も、殆んど毎年、及川先生の考案になるお雛様を幼児と共に製作してゐる。又お部屋々々で共同のを一揃へ、各幼児にも一揃つゝ製作させて、この日家庭に持ち歸らしめ、家のお雛段の一部に加へさせるのを常とし

てゐる。

この行事を行ふ事の期待効果は、年中行事の興味、心のやさしみ、手技、それから、個人作業の綜合効果、ミ云ふ様のこゝ。繼續作業時間は、二週間。

この週は

ふくらみ雛(手技の項参照)

唱歌 遊戯

第五週

唱歌 一回

紀元節の歌

これは先生が歌つて聞かせることにする。

遊戯 三回

出してひつこめて(律動遊戯土川五郎氏振)

遊戯をする始めに、歩いて行進する代りに「出してひつ

こめて」をしながらだん／＼に圓陣をつくつて行くのも

興味があつて面白い。

屏風 (手技の項参照)

第八週 ひなまつり

諸道具(手技の項参照)

くす玉(手技の項参照)

雛段の完成ミ雛遊び

だるまさんのにらめっこ(ゲーム遊戯)

「ダルマサン ダルマサン ニラメッコシマセウワラフ

トマケヨ 一、二、三」

ミ歌ひながら遊ぶ。

だるまさんの鬼になる子供が一人圓の中に入り、腕くみ

をしながら體をゆつたり動かして圓の中を歩き廻るな

り、圓の中央に足を組んで坐り込むなり自由にする。圓

形にならんだ子供たちは手を連いだまゝ前後に軽く振つ

てゐる。終りの「一、二、三」の所で、中に居る鬼さんは